

2019 年度実施概要

学校名

福岡県立水産高等学校

採択活動名

豊かな海づくりと地域の水産業発展に向けた研究・学習活動

取り組みの概要

①豊かな海づくり～プロジェクトT（TAKE（竹））～

海の中の海藻が減退する「磯焼け」の原因の一つとして、海中の栄養分や鉄分が不足していることがある。これは、山からの栄養分や鉄分の流入不足によって起こると考えられている。近年、広葉樹より成長の早い竹が山を浸食し、放置状態となって広葉樹林が竹林へと変化する現象が日本各地で起こっている。山に広葉樹が育たないため落葉が起らず、腐葉土が作られない。したがって山から海への栄養分や有機鉄の供給が減ってしまい、海では磯焼けが起こる。本校周辺の山も人手不足により放置竹林となっている。そこで本校では、放置竹林の竹を伐採し、山を整備することで広葉樹の育ちやすい環境を整える活動を行っている。さらに、伐採した竹を材料に魚礁を作成して海中に設置することで、魚の棲家やイカの産卵床として利用している。「山を豊かにすることが海を豊かにする」を合言葉として、教科「水産」の総合実習の中で取り組んだ。

②地元の新たな産業となる水産資源の増養殖技術の開発

本校では、地元の漁協と連携してマガキの養殖に取り組み、地域ブランド「津屋崎千軒かき」として販売が可能となり、地元の水産業の発展に貢献している。そして現在、地下海水を利用した海産魚の種苗生産に取り組んでおり、マダイ、トラフグ、カサゴ、ヒラメ、アユの養殖に挑戦している。限りある水産資源を持続的に利用するためには、天然資源を漁獲するだけでなく、つくり育てる視点が不可欠であり、本校で成功した種苗生産や養殖技術を地域の漁業者に広め、地元の新たな産業として普及するための取り組みを行った。また、育てた魚を使った「ぎょしょく」活動を行い、地元の小学生や幼稚園児とともに魚と触れ合う取組を行った。



実施単元名 ※実施した単元の数に応じて記載してください

1. 豊かな海づくり～プロジェクトT（TAKE（竹））～
2. 地元の新たな産業となる水産資源の増養殖技術の開発